

[社会]

歴史的な事象を自分事として捉え、多角的な視点から課題を解決する児童の育成

—SDGsの17のアイコンを活用した歴史分析—

丸山雄一郎*

1 はじめに

今世紀に入って気候変動が猛烈なスピードで深刻化して人々の暮らしを直撃している。貧富の差が広がり、紛争が増え、難民・避難民の数が第二次世界大戦以降、最高水準になっている。日本においても例外ではない。巨大化する台風、それに伴う想像を超える水害によって、生活の場が奪われるニュースが毎年のように報道される。このような問題を解決するために、国際社会は一体となり「持続可能な17の開発目標 (SDGs)」を掲げ、企業・自治体・個人誰もが参加できる共通の取り組みとして世界的な広がりを見せている。

教育分野にもSDGsを意識した文言が見られる。小学校学習指導要領¹⁾(平成29年告示)の前文をはじめ社会科、地理歴史科、公民科の改善の基本方針の中で、「持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育んでいくことが求められる」と述べている。しかし、「18歳意識調査『第20回社会や国に対する意識調査』」²⁾(図1)の9つある問いに対して、日本は参加した9カ国中すべての項目で最下位の数値を示している。「自分で国や社会を変えられると思う」の問いに対しては18.3%と特に低い数値を示し、「自分の国に解決したい社会課題がある」と「社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している」の2つの質問事項は、8位の韓国と約30%もの開きがある。これらは、中央教育審議会答申³⁾(平成28年12月)の「子供たちの現状と課題」として指摘された「学ぶことと自分の人生や社会とのつながり

	自分を大人だと思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を変えられると思う	自分の国に解決したい社会課題がある	社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している
日本	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

図1 18歳意識調査「社会や国に対する意識調査」²⁾(日本財団HPより)

を実感しながら、自らの能力を引き出し、学習したことを活用して、生活や社会の中で出会う課題解決に主体的に生かしていくという面から見た学力には、課題があることが分かる」とも一致する。知識伝達型授業で知識や理解を詰め込んでも他人事ではかない。社会や世界の現状を「自分事」として捉え、課題意識をもたせ、仲間と共有し、解決に向けて学習に取り組ませることが重要であるのだ。

教育分野でSDGsを活用することに、根本⁴⁾(2018)は「教科書にのっているから、試験に出るから学ぶのではなく、自分自身がアクターになって未来をつくるために学ぶことで、学びの面白さがグンと増す」、山藤⁵⁾(2019)はSDGsアイコンを教育に活用することに対して、「学校での学びを社会のための行動につなげられる窓として活用できる」と述べている。SDGsは、社会的な事象と自分をつなげて考えられる児童の社会的な見方・考え方の育成につながり、それは学習指導要領が求める主体的・対話的で深い学びの実現や資質・能力の伸長につながると考える。そこで、本研究ではSDGsの17のアイコンを活用することで、歴史的な事象を自分たちの生活と関わらせ、多角的な視点から、課題を解決していく子の育成につながるかを検証していく。

*長岡市立太田小学校

2 研究の方法

(1) 単元を貫く課題設定を行う

長橋⁶⁾ (2017) は社会事象を自分事として捉える方策の一つとして、課題提示の重要性を説いている。第一時において、単元のタイトルや資料の読み取りから、児童自身で考えを出し合い、単元を貫く課題設定を行う。何を目的に学習をしていくのか見通しをもたせることで、学習への意欲が高まる。さらに、自分たちの発言から設定した課題となると主体性が増すことが予測される。また、学習内容に関わりが出てくるであろうと予測できるアイコンを課題設定場面において17個のアイコンの中から選択する。そうすることで、学習前と後でどのアイコンが増え、減ったのか比較材料として使用することができ、自分の学びの成果として確認することができる。

(2) SDGsのアイコンで既習事項の価値付けを行う

単元終末において、既習事項をSDGsのアイコンで価値付けして整理したものと初めに予測したアイコンとの比較を行う課題を設定する。価値付けとは、学習した歴史的事象はSDGsの17のアイコンのどれに当てはまるのか、または近い考えであるのかと考えることと本実践では捉える。例えば、「〇〇の政策の中で町づくり (SDGsの11番) と関係があるものを選ぼう」、「学習した歴史的事象は、どのSDGsのアイコンと関係が近いが考えよう」というような課題である。アイコンを活用することで、歴史的事象に対する児童の考えが可視化され、仲間の考えと比較しやすくなり、多角的な思考を促す思考ツールの役割を果たすことになる。また、学習前の自己の意見との比較ができ、自分の学びの足跡を振り返ることができる。さらに、価値付けを行う際に児童はノートや教科書、資料集などを読み返し、知識の定着の場としても効果を発揮することが期待される。



図2 SDGsのアイコン (国際連合広報センター⁷⁾より)

3 授業の実際

(1) 児童の実態

本研究は、令和2年度6年生児童6人 (女子：4人、男子：2人) を対象に歴史の学習分野で行った。表1が事前に行ったアンケート調査の結果である。普段から社会科の授業に対しては意欲的に取り組む児童が多く見られるため、半数以上の児童が「社会は好き」と肯定的に捉えている。

その反面、③「覚えることがたくさんある教科ですか」

の問いに対しては、全員が「はい」と解答している。その理由をみると、「テストでよい点をとるには、大切な言葉を覚えておかななくてはならないから」、「授業は楽しいけれど、覚えることがたくさんあるから」、「大切な言葉がどんどん出てくるから」と言った理由が書かれていた。また、④「学習内容は生活に生きると思いますか？」の問いに対しては、多くの児童が「どちらでもない」と解答し、その理由は、「過去の出来事を学んでも今の社会に生かせるのかわからない」と記述した児童がいた。つまり、社会科の歴史分野の学習内容は、児童にとって魅力的ではあるが、覚えることが多く、自分達の生活と関連付けて考えることが難しいことが分かる。

②「自分の考えを公表するのは得意ですか」の問いに対しては、それぞれの項目に児童が均等に分かれている。普段から話すことが好きな児童は肯定的な評価を書き、発表内容に自信がもてない児童が「いいえ」や「どちらでもない」を選ぶ傾向が見られた。

(2) 単元について

① 単元名 新しい文化と学問

② 目標 江戸時代の文化や学問の特色、世の中の様子や人物の動きについて学習することを通して、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解し、現代の生活とも関連があることに気付くことができる。

表1 児童の社会科に対する意識調査

	はい	いいえ	どちらでもない
①社会は好きですか	4	0	2
②自分の考えを公表するのは得意ですか	2	2	2
③覚えることがたくさんある教科ですか	6	0	0
④学習内容は生活に生きると思いますか	1	1	4






単位：人

③ 単元の設定の理由

本単元では、江戸時代後期に江戸を中心として発展した町人文化を学習する単元である。これまでの児童は、平安時代は貴族中心の国風文化、鎌倉時代や室町時代は武士中心の簡素な文化と文化を創造する中心の人たちは貴族や武士など権力を握っている人々であったことを学んだ。それに対し、本単元に出てくる江戸後期の文化は、町民つまり一般市民が作り上げていった文化であることが大きな特徴である。また、町人文化が日本全国へ広がった要因でもある陸路や航路の発展、蘭学や国学などの価値基準となる学問の成立、藩校・寺子屋・私塾など教育機会の裾野の広がりとも今まで表舞台に出てこなかった一般市民が力を付け、歴史の主役として登場してくる単元である。

町人が作り上げた歌舞伎、浮世絵、食事の文化やインフラの発展、教育分野の充実は、現代の生活にも大きな影響を与え、今もその文化は残り続けている。よって、児童にとっては、歴史的な事象と自分の生活をつなげて考えやすい単元であるといえる。

④ 単元計画（全6時間）

時間	学習活動	児童から導き出したい言葉	関係するSDGsのアイコン
1	・単元名をもとに課題を設定する。それに対応するアイコンを選択する。		
2	・江戸時代の新しい文化について調べる。	人形浄瑠璃・歌舞伎・浮世絵・俳句・相撲・花火・食事	 
3	・交通網の発展は、人々の暮らしにどのような影響を与えたのか調べる。	五街道・航路・旅の流行・新田開発・農業技術の広がり・飛脚	 
4	・江戸時代どのような学問や教育が広がっていったのか調べる。	蘭学・国学・儒学・寺子屋・私塾・藩校	
5	・江戸時代におこった文化や学問などをSDGsのアイコンで価値付けをしよう。	※2時～4時に登場した上記の言葉を全て活用する。	
6	・作ったものを発表しよう。		

(3) 実践内容

① 単元を貫く課題設定について

まず、教科書の扉絵（教育出版⁸⁾pp.150～151）を児童に見せ、資料から読み取れることを自由に発表してもらった。人の多さや商売をしているような人が数多く見受けられること、物資の運搬に着目するような様子が見られた。

その後、単元名「新しい文化と学問」を提示し、「どんな文化や学問が広がっていったと予想できますか？」という発問を行った。児童は、人の多さから想像を広げ、「庶民にも広く受け入れられる文化」、「魚が多く見られるから、食文化も広がっていったのではないか」、「女性にも親しまれるような文化が広がっていったのではないか」というような予想が出された。学問については、この扉絵からは想像が難しかったようで、学問に関する記述や発言は見られなかった。

次に「この学習は、SDGsのアイコンの何番と関係しているか？」という発問を行った（表2）。扉絵は、食べ物の多さが目立ったので、食生活にかかわる文化が生まれたのではないかと考え2番のアイコンの選ぶ児童が大勢いた。食べ物が増えると同時に、貧困もなくなるだろうという理由で1番のアイコンを選ぶ様子が見られた。また、8番と9番は、町の様子から江戸時代の文化や学問が経済発展や産業の基盤を作ったのではないかと予測する児童も見られた。

それぞれ着眼点は違うが、表2のように整理すると本単元では、「文化や学問の発展は、町民の食生活が豊かになり、余裕が生まれた人が文化や学問を作り出したのではないか」という仮説を児童と共に導き出した。そこで、学級全体で『文化や学問が誕生したことが、江戸を発展させていったのではないか』という単元を貫く課題とした。

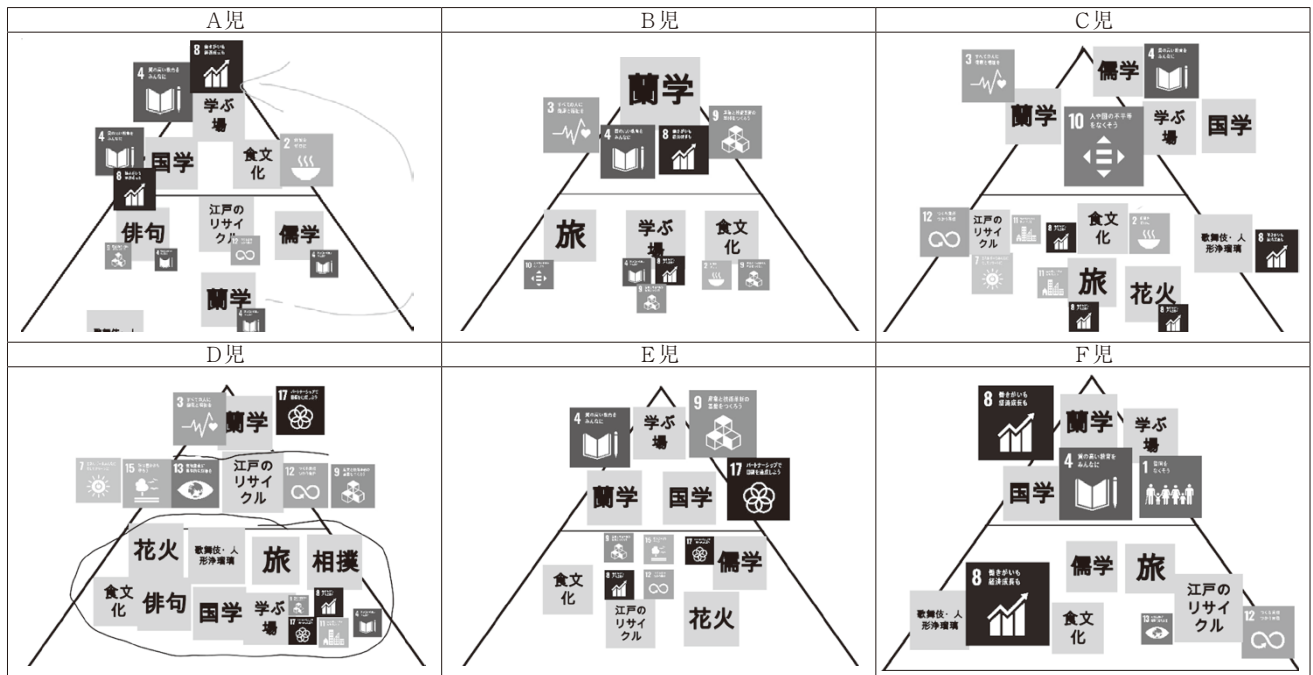
表2 学習前に児童が選んだアイコン

児童	関係あるアイコン	主な理由
A児	 	一般市民が多く見られるし、食べ物を売っている人が見られるから。
B児		経済が発展したように感じられるので、それに伴い経済力のある人が増えたから。お店があるので産業が発展したようにも感じられるから。産業が発展するには学問が不可欠だろう。
C児	   	B児と同じような理由です。建物が多くあるから、町づくりも発展したように思うからです。勉強をしないと、町の発展はできないかな。
D児	 	食べ物を売っている人が多いから。
E児	  	食べ物を多く売っているし、魚も多く見られるから、14番を入れました。
F児	 	活気があるし、人々の経済力もアップしたのではないかと思う。

② SDGsのアイコンで既習事項の価値付けを行う

5時間目に、2～4時で児童が学んだ学習内容を振り返るために「江戸時代におこった文化や学問などをSDGsのアイコンで価値付けをしよう」という課題に取り組んだ。表3がその結果である。既習事項がすべて、歴史的価値があるもので間違いはないが、その中で特に児童がSDGsと関連付けて大切だと考えるものを示し、自己の考えと他者の考えを視覚的に比較しやすくするためにピラミッドチャートを用いた。実際は、3層のピラミッドチャートを用いたが、紙面の関係上上位の2層の部分ができるものを記載した。チャートの作成は、Googleのジャムボードを利用した。

表3 児童の作成したピラミッドチャート



チャートの結果を分析すると、全ての児童が教育に関わる事項（学ぶ場・蘭学・国学）を最上位に設定し、関連するアイコンは「4 質の高い教育をみんなに」、「3 すべての人に健康と福祉を」、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」が目立つ。2層に着目すると、花火や旅、食文化、リサイクルなど現代にも残っている文化に関わる歴史的な事象を配置していることが分かる。上位に設定した理由（表4）については、

表4 チャート上位に選んだ理由

児童	チャートの上位に選んだ理由	アイコン番号
A児	学びの場が広がっていくのはよいことだと思う。日本の古くからの伝統を大切にしようとする国学や食文化の発展は現代に影響を与えているから。	2・4・9
B児	医療の発展は、すべての人の健康と福祉に欠かせないから。	3・4・8・9
C児	学ぶ場や学問があるから、日本は発展していったと思う。誰でも学べるのは、不平等をなくせると思うから。	3・4・10
D児	健康と福祉の充実には、蘭学つまり医学の発展は大切。江戸のリサイクルは、今の人もお手本にできると思ったから。	3・7・9・13・15・17
E児	学ぶ場がたくさんできたから、日本の産業は発展したんだと思う。	4・9・17
F児	蘭学を学んだことで、医療だけでなく海外の進んだ知識を吸収できるし、今後の日本の発展にもつながると思う。	1・4・8

「学びの場が広がることは、健康の福祉の充実につながる。」、「海外の進んだ知識を学ぶことは、今後の日本の発展にもつながる」といった趣旨の記述が多く見られた。また、江戸のリサイクルについて選んだD児は、「江戸のリサイクルは、現代の人もお手本にできる」と「12つくる責任、つかう責任」のアイコンを選んだり、食文化を選んだA児は、「食文化の発展は現代にも影響を与えている」と「2 飢餓をゼロに」のアイコンを選んだりしていた。この段階では、まだチャートの作成のみで、お互いの考えを伝え合うことは行わなかったが、すべての児童が江戸時代に発展した文化や学問の歴史的な事象を自分たちの生きる時代と関連させて考える様子が見て取れる。

6時間目に作成したチャートについての発表会を行った。児童は、友達の考えと自分の考えの相違点に注目して発表を聞いた。質問タイムでは、自分とアイコンが違う点に着目し、その理由を尋ねる様子が観られた。交流後の児童の感想が表5である。A児とE児はチャート作成に臨んだ時間や交流場面について記述を行い、「儒学がわかるようになった」、「自分も勉強になった」と知識の深まりを感じている。D児は、自分の作成したチャートではリサイクルの大切さ

を挙げていたが、友達の発表を聞き、「蘭学が一番大切だと思う」と考えが変容している。C児やF児は、やはり蘭学がもっとも大切だと自己の価値を確固たるものにしていく。F児に関しては、その学問を広げるために旅の大切さに気付き、旅をできるのは交通網の発達に影響していることにも考えが及んでいる結果なのではないかと考える。B児は、今後の幕末期に起こる人々の争いは、学問や学びの場が広がることによる考え方の違いに原因があるのではないかと、次の学習内容と関連させて考えていた。

4 実践の考察

本単元後に実践前と同様のアンケートを行った(表6)。全ての項目で、全員から肯定的な評価を得られた。

②の評価が変化し理由を聞くと、「SDGsのアイコンがあると、発表がしやすかったし、色々な考えが聞けて楽しい」など、発表をすることよりも聞くことに楽しさを感じている児童が増えていた。③「覚えることがたくさんある教科ですか」の問いでは、「はい」と解答した児童が4人減っている。その理由を聞くと、「何度も考えるうちに自然と覚えていくから、覚えなきゃという感覚はないんです」、「覚えることが苦しくない」と答えていた。これは、既習事項を振り返り、学び直すことで、覚えるという意識が薄れていったと考えられる。④「学習内容が生活に生きると思いますか」の問いに対しては、全員から肯定的な評価を得ることができた。これはSDGsのアイコンが、歴史的な事象と現代の社会生活を繋げる線の役割をしたと考えることができる。

以上より、歴史学習にSDGsの17のアイコンを活用することは、児童に肯定的に受け入れられたことが分かる。では、本研究テーマに迫るための2つの方策は、児童にどのような変化をもたらしたのか分析していく。

(1) 単元を貫く課題設定を行う

表7は、単元を貫く課題設定に対して児童がどのような感想をもっていたのかまとめたものである。資料と単元タイトルをもとに、児童たちは自由な発想で問いを生み、課題設定を行ったことに肯定的な評価をしている。「探偵みたい」、「自分たちで」、「何のために勉強をするのかが分かりやすかった」という記述から、授業に受け身ではなく主体的に取り組んでいた様子が読み取れる。

また、SDGsのアイコンを事前と事後で比較すると多様な種類が登場している(表2と表3)。最初は、1番や2番の目立っていたのに対し、3番、4番、8番のアイコンが多く使用されていることが分かる。この変化から、学習に対して達成感を感じている児童も見られる。単元の最初に提示する資料や単元名は、その活用方法しだいで児童の主体的な学習にいきなうことができる。さらに事前事後の変化を児童に提示することで、学習の達成感や自らの思考の変容を味わわせることができる。以上のことから、単元を貫く課題設定は児童の主体的な学習を促し、課題解決しようとする態度を育む上で効果があったと言える。

(2) SDGsのアイコンで既習事項の価値付けを行う

チャート作りで、児童からの支持が最も多かった蘭学につけられていたSDGsのアイコンを整理する(表8)とそれ

表5 チャート交流後の児童の感想

児童	発表後の感想
A児	今回で江戸の復習ができてよかった。しかも、少し儒学がわからなかったのが、今回で儒学についてわかって良かった。
B児	江戸時代は学問や文化が発展した時代だと自分は思う。でも、それ故に意見のぶつかり合いが起きた。
C児	色々な意見を聞いてみても、やっぱり蘭学が一番かな?と思いました。中国とオランダの解体新書が違うので、それを翻訳した人がすごいと思った。
D児	江戸で1番良かったのは、蘭学だと思いました。理由はいろいろな病気の治療に関係すると思ったからです。でも、全員の考えがよかったです。
E児	人それぞれ考えがあつてよかったし、自分も勉強になった。
F児	蘭学は医療に貢献しただけでなく、学問全体に影響を及ぼしたと思う。だから、とても大事だと思う。旅は蘭学や他の学問を広めることに大きな影響を及ぼしたと思うから、私はとても大事だと思う。

表6 歴史学習に対する意識調査の比較(左:事前,右:事後)

	はい		いいえ		どちらでもない	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
①社会は好きですか	4	6	0	0	2	0
②自分の考えを発表するのは得意ですか	2	4	2	0	2	2
③覚えることがたくさんある教科ですか	6	2	0	3	0	1
④学習内容は生活に生きると思いますか	1	6	1	0	4	0

単位:人

表7 単元を貫く課題設定に対する感想

- ・課題を追究するのが、探偵みたいで面白かった。
- ・自分たちで考えた課題は楽しかった。次の勉強でもやってみよう。
- ・何のために勉強するのかが分かりやすかった。
- ・面白かった。
- ・最初に設定したアイコンと最後に使ったアイコンのがちがって、勉強してきたなという達成感がある。
- ・自由に予想を立てられて、面白かった。

ぞれの児童が価値付けしたアイコンの数は異なり、共通しているのは「3すべての人に健康と福祉」のアイコンであった。これは、蘭学と解体新書の関係に注目し、医療の発展に大きな影響を与えたと考えた児童が多かったことが分かる。しかし、それだけではなく、4・8・9・17番のアイコンを付けている児童も見られた。これは、アイコンを通じた整理により多角的な視点から蘭学という歴史的事象の価値を考えた結果である。また、蘭学がその後の日本の歴史にどのような影響を及ぼしたか、さらには現代の日本にどのようなつながっていったのか考えた成果でもある。表6のアンケート項目の②や④の項目が事前よりも肯定的評価の高まりがみられたのも、アイコンを用いて、思考したり発表したりすることの効果であると言える。つまり、アイコンを活用して既習事項の価値付けを行うことは、歴史的事象を自らが住む社会を結び付けて捉え、多角的な思考を促すことに効果的であったと言える。

表8 蘭学に価値付けしたアイコン

児童	関係あるアイコン			
A児				
B児				
C児				
D児				
E児				
F児				

5 おわりに

歴史的事象を自分事として捉え、多角的な視点から、課題を解決していく子の育成につなげるために、児童自らが考えた単元を貫く課題設定やSDGsのアイコンを活用した整理・価値付け活動は有効であったと言える。単元を貫く課題設定は、事前事後の児童の思考の変化をみとることができ、何よりも児童の意識が切れることなく最後の活動まで繋げることができた。また、他者や自己の考えの振り返りが多角的な見方・考え方の育成にもつながっていた。

今回は、SDGsのアイコンを活用した価値付け活動を江戸の文化という現代につながる文化で実践したが、さらに過去を振り返ると現代にも影響を与える文化や政治の取り組みなどが数多くある。それらも、SDGsのアイコンで価値付けすることを通せば、過去の歴史的事象を現代の自分事としておきかえることができる。児童は、過去と現代社会とのつながりを探し、過去の日本人が成し遂げてきたことを再評価する。さらに、自分たちの暮らしをよりよいものにするために絶えず工夫や努力を繰り返してきたのだと見方を変えることができる。

今後は、他の時代においても、SDGsのアイコンを活用した方策は有効であるか検証したい。また、社会科だけでなく他教科においても、本実践で行った方策は有効であるか検証していく。そして、日々の学びを現代の社会と関連させて自分事として考え、主体的に学習に取り組める児童を育てていきたい。

6 引用文献（参考文献）

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社、2017、p.5
- 2) 日本財団『18歳意識調査第20回社会や国に対する意識調査』、2019、https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/11/wha_pro_eig_97.pdf、2021年9月6日検索
- 3) 中央教育審議会答申、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（平成28年12月）」、<https://www.bunkei.co.jp/kaitei/images/chukyoshin2017.pdf>、2021年9月6日検索、6 p
- 4) 根本かおる「SDGsを自分ごとにしよう」、一般社団法人Think the Earth『未来を変える目標SDGsアイデアブック』紀伊国屋書店、2018、7 p
- 5) 山藤旅聞「SDGsは子どもたちの学びと社会をつなぐ扉」、寛裕介『持続可能な地域のつくり方』英治出版、2019、332～335 pp
- 6) 長橋俊文「社会的事情を自分事として捉え、問題解決を通して社会的視野を広げる児童の育成－小学校第5学年「これからの食料生産」を通して－」、『教育実践研究第27集』上越教育大学学校教育実践研究センター、2017、79～84 pp
- 7) 国際連合広報センター、<https://www.unic.or.jp>、2020年9月8日検索
- 8) 大石学ほか『小学社会6』教育出版、2019年3月26日検定、2020年1月20日発行、150～151 pp